

【科目名】 金融経済学（2019 年 4 月以前に入学した学生対象科目）	【単位数】 4 単位	【科目区分】 専門科目 基幹科目
【担当者】 國方 明 Kunikata, Akira	【オフィス・アワー】 時間： 第 1 回の授業で連絡します。 場所： 525 号室	【授業の方法】 講義
【科目の概要】 本科目では、金融という経済活動を、ミクロ経済学とマクロ経済学の知識を使って理解します。金融という経済活動と言っても漠然としているので、今 A さんが B 銀行へ預金したという例を考えます。この例から、金融の特徴を 2 つ挙げられます。 特徴 1： 皆さんは、今、A さんから B 銀行に、おカネが移動したことを容易に想像できるでしょう。では、A さんと B さんの間で、おカネだけが移動するのでしょうか？ 特徴 2： A さんと B 銀行の取引は、満期になって、B 銀行が A さんにおカネを返してようやく終了します。つまり、金融にかかわる取引では、今から満期までの時間経過を必ず考えなければいけません。これに対して、ミクロ経済学や応用ミクロ経済学で学んだ取引では、時間経過を考える必要はほとんど無かったでしょう。 以上のように金融には、他の種類の経済活動にない特徴があります。この特徴を理解するために、本科目では今まで学んできたミクロ経済学とマクロ経済学の理論をどのように拡張すべきなのか、またその特徴が現実の制度にどのように結びついているのかを学んでもらいます。		
【「授業科目群」・他の科目との関連付け）・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか」 1. 他の科目との関連付け まず、【科目の概要】で説明したように、本科目では、ミクロ経済学とマクロ経済学両方の知識を用いて金融を理解します。したがって、ミクロ経済学とマクロ経済学両方に対する十分な理解が必要です。特に本科目と関連している部分を取り出すと、①ミクロ経済学のうち不確実性や情報の理論、②マクロ経済学のうち経済政策の部分です。 次に、本科目は、金融関係の他科目(例えばファイナンス理論や金融機関論)の基礎になります。 2. 学んだことが何に結びつくか？ 金融経済学の対象となる経済主体は、主におカネを貸したり借りたりする人や組織です。そしておカネの貸し借りという経済活動は、日常的に行われています。例えば皆さんは現在銀行へ預金をしているでしょうし、いずれ株式や債券などに投資するかもしれません(このような活動を「資産運用」と言います)。一方、皆さんはいずれ住宅購入などのためにおカネを借りると思われます(このような活動を「資金調達」と言います)。したがって、本科目での学修は、皆さんの資産運用と資金調達に関して、適切な意思決定を行うための手助けになるでしょう。		
【科目の到達目標(最終目標・中間目標)】 1. 最終目標 - 資産運用と資金調達に関する意思決定を適切に行うための知識や判断力を身につける。 - 金融政策がマクロ経済にもたらす影響を適切に理解できるようになる。 2. 中間目標 - 金融に関するマスコミ報道を「正しく」理解できるようになること。 - 現在の日本で、金融に関してどのようなトピックスがあるかを学ぶ。 以上の目標を達成するためには、授業で学んだことを、新聞を読んだりTVのニュースを見たりした時に応用する必要があるでしょう。		
【学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫】 2020 年度の授業評価アンケートでは、「ハンドアウトが丁寧。」などの肯定的な評価をいただきました。2021 年度も引き続き分かりやすい授業を行えるように努めます。		
【教科書】 本科目では教科書を使用しません。その代わりに、ハンドアウト(俗に言うプリント)を配布して、それに基づいて講義します。ハンドアウトは、下記参考書に基づいて作成されています。		
【指定図書】 該当無し。		

【参考書】 参考書1: 内田浩史、『金融』、有斐閣、2016年(新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み) 参考書2: 小林照義、『金融政策 第2版』、中央経済社、2020年(新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み)	
【前提科目】 ミクロ経済学、応用ミクロ経済学、マクロ経済学、統計学 上記4科目いずれかの単位を修得していない人も、本科目を履修できます。但し、該当科目のシラバスに紹介されている書籍の自習を強く勧めます。	
【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等) 次の(ア)～(ウ)の総合評価に基づき、履修者それぞれを評価します。 (ア) 課題研究6回。 (イ) 授業内小テスト1回。択一式です。 (ウ) 試験期間中の試験1回。択一式と記述式の併用です。	
【評価の基準及びスケール】 【学修の課題、評価の方法】に挙げた(ア)～(ウ)の総合評価に基づいて、グレードの仕切りを設定します。 A:80%以上。B:70%以上、80%未満。C:60%以上、70%未満。D:50%以上、60%未満。F:50%未満。	
【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】 ● 本科目は、2019年4月以前に入学した学生向けの授業です。2020年4月以後に入学した学生は、金融経済学Ⅰ(2単位科目)を履修してください。 ● 第1回の授業で、評価方法などについて補足説明します。できる限り出席してください。 ● 他の学生の迷惑になる行為(例:私語や、授業にかかわる学生同士の相談を、原則として禁じます。授業にかかわる相談も、周囲の学生にとって受講の妨げになりうることを想像してください。授業中に相談事が生じたら、担当教員(國方)が受け付けます。 ● 新型コロナウイルス感染拡大状況などによって、本シラバスに変更がありえます。変更が生じたら、授業内で連絡します。	
【実務経歴】 公認会計士事務所での監査証明業務補助などの実務経験を活かし、これまで学んできたミクロ経済学とマクロ経済学の理論をどのように金融へ拡張できるのか、また金融理論の特徴が現実の制度とどのように結びついているのかを学ぶ授業です。	
授業スケジュール (新型コロナウイルス感染拡大状況や履修者の理解度などによって、スケジュールに変更がありえます。変更が生じたら、授業内で連絡します。)	
第1回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス及びイントロダクション 内 容: まず、本科目の全体像を学びます。次に、金融や金融経済学を定義づけて、金融経済学をめぐる諸論点を紹介します。最後に、(講義のやり方の説明を兼ねて)「経済理論における貨幣の役割」を学びます。 参考書1 第1章
第2回	テーマ(何を学ぶか): 貨幣とは何か? 内 容: 貨幣の機能や統計を学ぶとともに、決済^{けっさい}という行為を学びます。 参考書1 第1章と第2章
第3回	テーマ(何を学ぶか): 金融取引の特徴と、金融取引の阻害要因 内 容: 金融取引の特徴、金融取引の阻害要因を学びます。 参考書1 第3章と第4章
第4回	テーマ(何を学ぶか): 阻害要因の軽減策と、金融市場 内 容: 阻害要因を軽減するための社会的工夫を学びます。また、社会的工夫の一例として、金融取引の場である、金融市場について学びます。 参考書1 第3章と第4章

第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 異時点間の消費問題と利子率 内 容: 第 5 回～第 7 回で、利子率にかかわる理論を学びます。第 5 回では、異時点間の消費問題のモデルを紹介し、このモデルの中での利子率の役割を学びます。 参考書 1 第 2 章
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 金融資産価格と利子率の関係 内 容: 金融資産の価格と利子率は、逆方向に変化する関係があると考えられます。この関係が成り立つメカニズムを学びます。 参考書 1 第 2 章
第 7 回	テーマ(何を学ぶか): 利子率の期間構造 内 容: 短期利子率と長期利子率との関係について、3 つの仮説を紹介します。両者の関係は、金融政策を議論する際にも重要な役割を果たします。 参考書 1 第 2 章
第 8 回	テーマ(何を学ぶか): 貸し手の合理的行動①前置き 内 容: 貸し手の合理的行動を議論する前提として、リターンやリスクの概念を学びます。また、リターンやリスクの尺度についても学びます。 参考書 1 第 7 章
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): 貸し手の合理的行動②数式 内 容: ポートフォリオ全体について、リターンとリスクそれぞれを表す数式を学びます。 参考書 1 第 7 章
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): 貸し手の合理的行動③予算線 内 容: ポートフォリオ全体について、リターンとリスクの関係を図で表します。この図は、貸し手にとっての予算線に当たります。 参考書 1 第 7 章
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): 貸し手の合理的行動④無差別曲線、期待効用極大化行動 内 容: 第 10 回で学んだ平面に、貸し手の無差別曲線を描きます。そして、予算線と無差別曲線とを組み合わせ、予算制約の下での期待効用極大化行動を図示します。 参考書 1 第 7 章
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): 借り手の合理的行動 内 容: 借り手、特に企業の合理的行動を、ミクロ経済学と応用ミクロ経済学の知識を使って学びます。 参考書は該当無し。
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): 金融構造 内 容: 貸し手と借り手が、どのような経路を通じて結びついているのかを学びます。この経路は、(a)金融市場と(b)金融仲介機関の 2 種類に分かれます。これらのうち(a)については、第 4 回でも学びました。 参考書 1 第 8 章と第 9 章
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): 証券市場 内 容: 証券市場を学びます。証券市場は、第 13 回(a)のうち、長期金融市場に当たります。また、<u>第 14 回の授業内で、小テスト(択一式)を実施する予定です。</u> 参考書 1 第 9 章
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): 金融仲介機関の役割①保険会社 内 容: 第 13 回(b)つまり金融仲介機関のうち、保険会社について学びます。 参考書 1 第 8 章と第 13 章
第 16 回	テーマ(何を学ぶか): 金融仲介機関の役割②銀行 内 容: 第 13 回(b)つまり金融仲介機関のうち、銀行について学びます。 参考書 1 第 8 章と第 13 章
第 17 回	テーマ(何を学ぶか): 中央銀行(日本では日本銀行) 内 容: 中央銀行の役割を学びます。 参考書 1 第 12 章と第 14 章

第 18 回	テーマ(何を学ぶか)： 貨幣供給と、貨幣に対する需要 内 容： 第 18 回以降でマクロの金融に入ります。第 18 回～第 22 回では、金融政策を中心に、一国で完結するマクロ経済モデルを学びます。 第 18 回では、貨幣供給と貨幣需要それぞれの決まり方を学びます。 参考書 1 第 12 章、参考書 2
第 19 回	テーマ(何を学ぶか)： 金融政策の有効性についての論争 内 容： マクロ経済学の歴史を振り返り、金融政策の有効性についての論争を紹介します。また、裁量とルール、ラグ、時間不整合性やクレディビリティなど、論争の中で現れた様々な概念を学びます。 参考書 1 第 12 章、参考書 2
第 20 回	テーマ(何を学ぶか)： 金融政策の最終目標と手段 内 容： 金融政策の最終目標を学びます。また、中央銀行が最終目標を達成するために実施する手段を学びます。 参考書 1 第 12 章、参考書 2
第 21 回	テーマ(何を学ぶか)： ルール割り当て理論 内 容： 第 19 回で、ルールを学びました。今回、まず代表的なルールを 2 種類学びます。次に、2 種類のルールの割り当てについての理論を学びます。 参考書 1 第 12 章、参考書 2
第 22 回	テーマ(何を学ぶか)： 非伝統的金融政策 内 容： 1990 年代末以降、わが国では非伝統的金融政策が数度実施されています。非伝統的金融政策の特徴や、期待される成果を学びます。また、非伝統的金融政策の副作用も学びます。 参考書 1 第 12 章、参考書 2
第 23 回	テーマ(何を学ぶか)： 新たな種類の金融取引 内 容： 近年の規制緩和や技術進歩の結果、新たな金融商品や金融の枠組みがさまざま登場しています。ここでは新たな枠組みのうち、証券化を学びます。 参考書 1 第 7 章
第 24 回	テーマ(何を学ぶか)： 金融規制 内 容： 前項の規制緩和と矛盾するようですが、今でも金融活動に様々な規制が存在します。しかも、いわゆる世界金融危機以降、一部の規制が強化される傾向にあります。ここでは、金融規制の存在意義を説明し、金融規制の例を学びます。 参考書 1 第 14 章
第 25 回	テーマ(何を学ぶか)： 課題研究(1)で代替 内 容： 貸し手の行動を中心に、課題研究を行います。 参考書 該当無し。
第 26 回	テーマ(何を学ぶか)： 課題研究(2)で代替 内 容： 貸し手の行動を中心に、課題研究を行います。 参考書 該当無し。
第 27 回	テーマ(何を学ぶか)： 課題研究(3)で代替 内 容： 借り手の行動を中心に、課題研究を行います。 参考書 該当無し。
第 28 回	テーマ(何を学ぶか)： 課題研究(4)で代替 内 容： 借り手の行動を中心に、課題研究を行います。。 参考書 該当無し。
第 29 回	テーマ(何を学ぶか)： 課題研究(5)で代替 内 容： 金融市場を中心に、課題研究を行います。 参考書 該当無し。
第 30 回	テーマ(何を学ぶか)： 課題研究(6)で代替 内 容： 金融政策を中心に、課題研究を行います。 参考書 該当無し。
試 験	試験期間(12 月 1 日(水)～12 月 3 日(金)、12 月 6 日(月)、12 月 7 日(火))中に、試験を 1 回実施します。択一式と記述式の併用です。出題範囲などを授業内で連絡します。